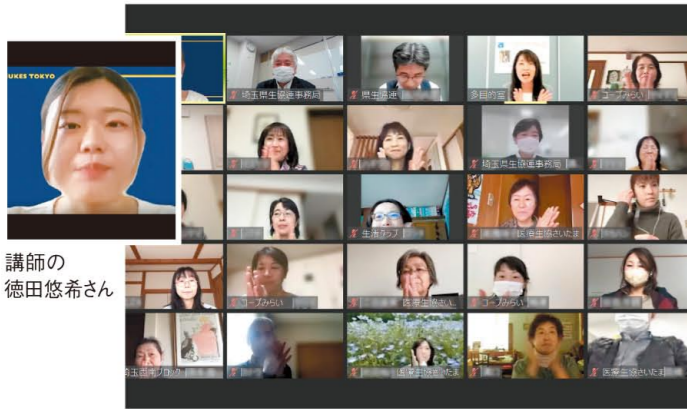


3/2 埼玉県生協連ピースフォーラム

「『未来を手放さないため』の私たちの挑戦 ～核兵器禁止条約とNPTから未来を描く～」をテーマに講演いただきました



講師の
徳田悠希さん

KNOW NUKES TOKYOの徳田悠希さんを講師に開催し、Zoomによるオンラインで29人が参加しました。徳田さんが所属しているKNOW NUKES TOKYOの活動紹介から始まり、核兵器禁止条約締約国会議とNPT再検討会議の論点と課題、2つの会議と日本、2023年にポイントとなる出来事などを話されました。「自分の問題として、広島・長崎にルーツのある人以外の方が、どうやったら関わっていいのか、関わってもらえるのか考えていきたいです。それがともに歩むということだと思っています」と話されました。後半は、会員生協の平和の取り組みについてコープみらい、パルシステム埼玉、生活クラブ生協、医療生協さいたまから報告を行い、取り組みを共有しました。



SAITAMA
2023 夏号

No.86
(2023年7月発行)

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

写真ニュース



埼玉県マスコット
「コバトン」

Top News

6/22

埼玉県生協連第52回通常総会 2023年度事業計画など すべての議案が承認可決されました



埼玉会館にて、代議員定数40人中40人(実出席31、書面出席9)が出席し、開催しました。今回の通常総会は、実出席を基本として運営しました。埼玉県知事大野元裕様はじめ、各界の皆さまからメッセージをいただき、来賓として、埼玉県消費生活課課長田中康博様、JA埼玉県中央会専務理事小池和明様よりごあいさついただきました。次に、吉川尚彦会長理事が第1号議案から第7号議案まで一括提案し、5人の代議員からの発言、議案討議のまとめを経て、採決をおこない、全ての議案が承認可決されました。



会長理事あいさつ 埼玉県消費生活課 田中康博課長 JA埼玉県中央会 小池和明専務理事

閉会后、選任された役員により、第1回理事会・第1回監事会が開催され、会長理事に互選された吉川尚彦会長理事より、新役員体制が報告されました。

3/6 JA埼玉県女性組織協議会と埼玉県生協連第28回早春交流会

対面とオンラインで「子ども食堂ってなんだろう」を テーマに学び、交流しました



講師の東海林尚文さん

男女共同参画の推進、協同組合間交流、地域でのつながりを強め、豊かな地域社会づくりのきっかけとすることを目的に、1996年から実施されている早春交流会は今年で28回目を迎えました。JAいるま野本店会議室での参加24人、およびZoomによるオンライン45人、計69人が参加しました。(一社)埼玉県子ども食堂ネットワーク代表理事の東海林尚文さんから、「子ども食堂ってなんだろう?」と題して、全国の子ども食堂の状況や東海林さんが活動されている富士見みんなのプロジェクトでの取り組みを報告いただきました。子ども食堂とは子どもの貧困対策のためだけでなく多様な役割もっており、「地域のオアシス」であると話されました。講演後、講演を受けての意見交換会を会場・オンライン各4グループに分かれて行い、交流と理解を深めました。

6/1 埼玉県生協連第1回学習会

「これからのライフスタイルを考える ～ファッションから考える持続可能な未来～」をテーマに学習しました



埼玉会館ラウンジおよびオンラインで開催、会場15人、オンライン22人、計37人が参加しました。環境省「ファッションと環境」タスクフォースリーダー岡野隆宏さんを講師に、衣服が作られてから廃棄されるまで、ファッション産業が環境に与える影響について、我が国のファッション産業の現状など説明いただきました。さらに、原材料調達から製造までの環境負荷、衣類回収の現状など詳しく説明いただき、サステナブルファッションに向けたアクションについて生活者・企業の視点で必要とされることをお話いただきました。参加者からは、「ファッション産業が環境に与える影響がこんなに大きいものだ初めて知った」、「簡単に購入、廃棄しないことを心掛けたい」などの感想がありました。

6/20

NPO法人埼玉消費者被害をなくす会 第20回通常総会および記念講演を行いました



池本誠司理事長による
あいさつ

埼玉会館にて、第20回通常総会を開催し、理事・監事、事務局含め35人が出席しました。池本誠司理事長によるあいさつ、吉川尚彦専務理事からの議案提案ののち、採決では全議案可決承認されました。*表決権121個中、実出席21個、委任3個、書面78個、計102個(採決時) 総会終了後には、「広告があなたを、狙い撃ち! ～あなたのスマホやパソコンに届く広告のしくみ～」をテーマに記念講演を行い、66人が参加しました。



会員生協の取り組み 広がる 県内生協の多彩な活動

生活協同組合コープみらい

組合員とともに10周年



組合員のお子さん11人がエスコートキッズとして参加

県内を4台のラッピングトラックが走行

未来へつなごう



2023年3月、コープみらいは創立10周年を迎えました。10周年を記念し、WEリーグクラブ「三菱重工浦和レッズレディース」マッチパートナー・フードドライブイベントを行いました。

また組合員から「私とコープみらい」をテーマにしたイラストを募集し、選出されたイラストを使ったラッピングトラックが来年3月まで県内を走行します。

埼玉を地元とするコエドブルワリーと共同開発した、コープみらい10周年アニバーサリービールも数量限定で販売しています。

アニバーサリービール



生活協同組合パルシステム埼玉

田植えから稲刈りまで実体験を通して、お米について学ぶ



パルシステム埼玉では、今年も「岩槻田んぼ交流」を開催しています。協力いただいている南埼玉産直ネットワークとの交流も今年で18年目を迎えました。5月27日は13組40名の家族が楽しみながら田植えに挑戦しました。これから雑草取りや生き物観察、稲刈りを行い、稲の成長を見守り、農作物を育てる苦労や環境保全型農業について学びます。また、自宅で育てる「バケツ稲」にもチャレンジしてもらっています。

生活クラブ生活協同組合

「たんぼで無農薬のはにゅう米を育てよう!」を開催



羽生市のたんぼには32組99人が集まり、田植えに参加しました。苗の束を持ち、生産者に植え方を教えてもらいながら、田植えを体験しました。たんぼの泥に足を取られて泣く子どもや、座り込んで楽しそうに遊ぶ子どもなど、たんぼに親しむ姿が見られました。コロナ禍を経て久しぶりの生産者と組合員の交流は、米作りの苦労と食に対する理解がすすむ、良い機会となりました。



医療生協さいたま生活協同組合

みんなで誘い合って健康診断の受診を



乳がんボディを使ったセルフチェック

さいたま地区Cブロック(さいたま市)の健康づくり委員長会議主催で、4月に「乳がん検診学習会」を行いました。パルシステム埼玉からも21人が参加。浦和民主診療所の放射線技師を講師に、検診の重要性を学び、「乳がんボディ」を使ったセルフチェックも体験しました。「検診を受けようと思いました」「友達にもすすめます」などの感想がありました。健康診断の受診は、健康習慣の見直しや、病気の早期発見・早期治療につながります。今年もみんなで誘い合って健康診断の受診をすすめていきます。

こくみん共済 coop〈全労済〉

14地区で組合員討議集会を開催しました



組合員討議集会(さいたま地区会場)

こくみん共済 coop 埼玉推進本部では7月28日に開催する第6回組合員代表者会議に向けて、5月17日から5月29日まで、県内14地区において組合員討議集会を開催し、2022年度推進活動計画進捗報告、2023年度推進活動計画(案)、各地区推進活動計画等について協議し、確認されました。

組合員討議集会には職種・地域の組合員合計216人が参加し、参加者からいただいたご意見等は組合員代表者会議に反映させ、さらなる運動と事業の展開につなげてまいります。

さいたま住宅生活協同組合

組合員の意見や声から学び、どう活かすか



協力業者研修会

住宅生協が請け負った工事終了後、利用者アンケートを実施、そのアンケートをもとに「苦情や厳しい意見からどう学ぶ」と題し、研修会を行いました。研修の目的は、人と人の結びつきを大切にする協同組合の原則と、住宅生協の経営理念を深く学ぶことにあります。

住宅生協の経営理念、特に「組合員の利益第一」への考えのもと、厳しい意見や苦情に対して意見交換し、住宅生協の信頼、組合員の要求に対する正しい解決法、提案力、技術力等を高めていくことなど、経験談を交えながら意見交換を行い、業者間の協力体制を確認しました。

埼玉大学生生活協同組合

「Spring Festival履修登録編」を開催しました



埼玉大生協では2023年の新入生に向けて「Spring Festival履修登録編」を開催しました。

これは新入生の「履修登録のやり方に自信がない」「どの授業を取るか選ぶのが難しい」という不安解消のために、今年、初めて行った企画です。2日間で760人と新入生の半数近くが参加し、大変好評でした。企画の内容も新入生のニーズに合ったものでしたが、コロナ禍以降こういった対面での企画が減っていた中で、先輩との繋がりを作ることができたのも大きな成果でした。